

BLASTAM情報第1号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2024年6月10日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7日										
	8日										
	9日										
	10日										
	11日										
	12日										
	13日										
	14日										
	15日										
	16日										
	17日										
	18日										
	19日										
	20日										
	21日										
	22日										
	23日										
	24日										
	25日										
	26日										
	27日										
	28日										
	29日										
	30日										
	7月	1日									
2日											
3日											
4日											
5日											
6日											
7日											
8日											
9日											
10日											
11日											
12日											
13日											
14日											
15日											
16日											
17日											
18日											
19日											
20日											
21日											
22日											
23日											
24日											
25日											
26日											
27日											
28日											
29日											
30日											
31日											
8月	1日										
	2日										
	3日										
	4日										
	5日										
	6日										
	7日										
	8日										
	9日										

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
- 2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
- 3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
- 4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
- ：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
- ：好適条件の出現なし
- ？：判定不能

BLASTAMの活用方法

- (1) BLASTAMは、気象条件(アメダスデータ)のみによって葉いもちの発生を予測するシステムである。しかしながら、実際の圃場における葉いもちの発生には、気象条件の外にも、菌の多少(密度)、イネ品種による抵抗性や体質、薬剤防除条件などが大きく関与している。したがって、BLASTAMは、あくまでも葉いもち発生予察の参考資料の一つとして扱う。
- (2) BLASTAMは、葉いもちを対象としており、稲の移植約20日後を起点とした35日間(6月15日移植の場合、7月5日～8月10日)が適用期間とされている。ただし箱施薬が行われた圃場では、その持続期間中はBLASTAMは使用できない。
- (3) 葉いもちは、菌の侵入から発病までの潜伏期間が約1週間である。そのため、BLASTAMによる感染(準感染)好適条件が現れた場合、感染株では約1週間後から初発生あるいは病斑数の急激な増加が予想できる。
- (4) BLASTAMによる感染(準感染)好適条件の出現回数が多いと、その地域の葉いもちの発生面積が増加し、発病程度も著しくなることが予想できる。

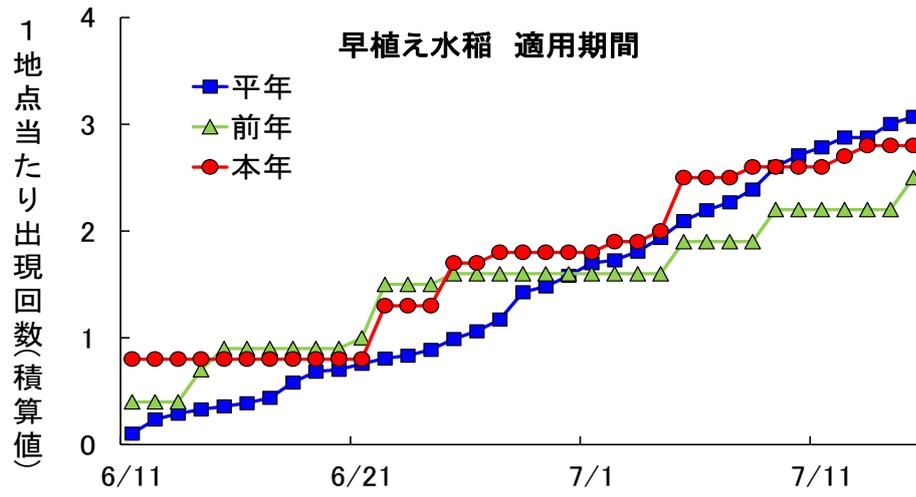


図1 BLASTAMによる準感染・感染好適条件の出現回数
(5月22日移植の場合: 適用期間6月11日~7月15日)